

2016 石巻震災復興支援報告

自然保護担当 瀬下 啓司

去る 3/4(金)~3/6(日)、埼玉県連盟自然保護委員会主催による 2016 震災復興支援を宮城県石巻市で行ってまいりました。参加者は県連盟加入の各会から総勢 26 名。中型バスの定員 28 名に迫るたくさんの方に参加していただき、無事終了することができました。理事に就任して 1 年目、去年 9 月にも計画していたのですが参加者が少なく中止していただけに、

本当にうれしく思います。参加してくださった皆さんに心より御礼申し上げます。



3/4(金)、ふじみ野と南浦和からバスに乗り込み一路石巻へ。翌朝 3/5(土)、石巻に到着。牡鹿半島の谷川浜にて作業開始です。この日の朝は冷え込んでいたが、日中はうっすらと日が差すこともあり、この時期としては暖かい中で作業することができたと思います。作業は“ホヤの養殖種付け”のお手伝いで、穴を開

けた蠣の貝殻に紐を通していくというものです。1本の紐に貝殻を 80~100 個ぐらい通していくと完成で、これを全員で 400 本くらい作りました。渥美義悦さんご夫妻、渥美一秀さんご指導のもと、2 班に分かれ 8:30~15:30 まで作業をしましたが、皆さんとても一生懸命取り組んでくださったと思います。途中の休憩時には暖かいお茶やお菓子、昼食時にはカニやツブ貝、タコ(A 班)、ホヤやウニ(B 班)等々も差し入れて戴いた上に、終了時には取れたてのワカメをたくさん戴いてしまいました。震災から 5 年が経過したわけですが、現地は瓦礫がやっと片付いたものの、仮設住宅にお住まいの方も多く、まだまだ復興には時間を要する状態です。そんな中、渥美さんたちは私たちが笑顔で迎えて下さり、お手伝いに伺った私たちが反対に元気をもらった気持ちです。作業を終えた後は宿に移動、お風呂に入って疲れた体を休め、おいしい海の幸をたくさんいただき、参加者で楽しく懇親しました。



3/6(日)は被災地の見学を行いました。石巻の港が見渡せる日和山公園からは、沿岸の家々がすべて津波に流された跡地がかさ上げされ、いまだに1軒の家も建っていない様子がまぶたに飛び込んできます。また、全校児童108人の7割に当たる74名が津波で亡く

なった大川小学校では、1人1人が慰霊碑に手を合わせて線香をたむけてきました。参加者の皆さんそれぞれの胸にグッと迫るものがあったのではないかと思います。またこの日は最終日でしたので、石巻駅前の石巻観光物産センターと道の駅・上品の里にも立ち寄り、現地の海産物 etc などのおみやげをみんなで購入しました。こちらも支援になるとの気持ちからでしょう、皆さんでたくさん買い求めました。帰りのバスでは、理事長の武笠さんが差し入れて下さった3.11の記録をつづったDVD、来年度より実施予定のみちのく潮風トレイルへの期待をこめた宮城県沿岸の風景が映し出されたDVDを鑑賞しながら3日間にわたる小さな支援の旅を振り返ったのでした。

今後も引き続き支援を継続していくことが大切だと思います。2016年度(2017年春)も3月に石巻震災復興支援を実施するとともに今秋にはみちのく潮風トレイルを巡るツアーを企画いたします。今回で埼玉県連盟としては10回目の石巻震災復興支援となりました。2011年の震災後、いち早く瓦礫の撤去などの困難な作業に駆けつけた先輩方の思いを引き継ぎ、微力ながら私も尽力したいと思っています。最後に今回参加して下さった皆さんに改めて御礼申し上げるとともに、今後とも埼玉県連盟労山の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。参加団体：川越ハイキングクラブ・ビスターリ 3、北本山の会 6、峠山の会 3、新座山の会 4、埜歩歩富士見山の会 4、三郷山の会 3、わらび山の会 3 計7団体、26名